

本堂客殿建設進捗状況



長い間寺報の更新ができず心苦しく思っています。
建設事業も最終段階になり、残すは中門と記念碑です。

壽楽院本堂客殿建設最新情報

十三回の忌の大日如来 十三仏の事典

大日如来は、天地のありとあらゆるもの、宇宙の生命そのものの仏さまであり、密教ではすべての仏さまの中心の仏さまとなっています。別名毘盧遮那仏とも言われています。「光明があまねく照らす仏さま」という意味でもあり、太陽の光のように全ての物に命を与え、育てると言う意味から、大日如来と名づけられています。

十三仏様の大日如来は、金剛界の大日如来で智拳印を結んでいます。亡き人は、大日如来のいの中に合体されて、大日如来そのものなかに生かされていくようになったとも言えます。大日如来は、五智のはたらきによって、導いてくださっていることになっています。その五智とは、



(1) 大円鏡智、分別を離れ、無心になつて、あたかも鏡のように真実をそのままにとらえることができるという知恵。(2) 平等性智、わがままな心を断つ

て、自己と他者、すべてのものを平等にみる知恵。(3) 妙観察智、もの実相は空であることをみきわめ、ものごとを自在に観察することができる知恵。(4) 成所作智、衆生を導いていくことのできるすぐれた知恵。(5) 法界体性智、あらゆるものを悟りに導いていくというそのものの働きの知恵。この大日如来の五智の導きによって、悟りへの道はいっそう深まっていくこととなります。身近かな人の死に接して、生命の尊さを感じるとともに、亡き人の供養を通して、信仰育成にも努めているのですが、それでも今いるどうにも悟り切れない自分に気づくこととなります。仏さまに導かれるということは、仏さまに身を任せるということです。導かれていくのは、身を任せるのだという道を、問い続けることが、すなわち悟りへの道なのです。